

暮らしの中でエコを考える

トイレになぜ川が？

海外のお客さまが日本に来たときに、まず不思議に思うものって何だと思いますか？ トイレに設置してある川のせせらぎ音なんですか。公衆トイレでの設置はもうごくあたりまえになってるので気にする人もあまりないかもしれませんが、このせせらぎ音を流している電気は必要なのだろうか？って思っています。

近年、トイレ・メーカーさんでも節水式トイレの開発に力を

入れており、以前に比べると流す水量は大きく減っています。ふだんから大と小を使い分ければ、6リットルもの水をむだに流さずにすむと、「自分の音」を消すただけに使う水も電気もそろそろやめたいですね。

いろいろなモノその2は、便座の暖房です。便座に座った時にほんわかあったかいくらいなので使っている電力はほんの少しかと思われるかもしれませんが、実は1日中暖房つき便座をつけておくとドライヤーを「強」にして30分つけっぱなしにしているのと同じ電力を使っていると聞いたことがあります。冷たい便座に座りたくないのなら、便座カバーをつければいい。電力ゼロで「ほんわかあったかい」という目的を満たすことができます。

その3は、高級トイレレットペーパー。森林の木からつくったバージンペーパーや、香りや

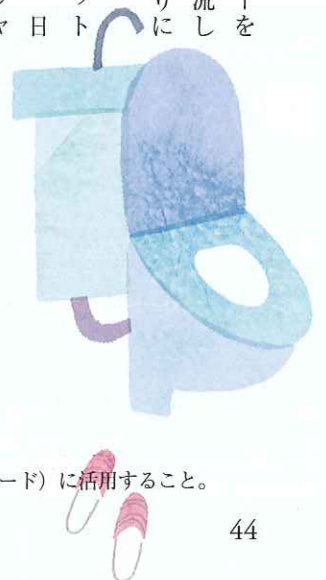
柄つきのトイレレットペーパーをよく見かけますが、どうせ流してしまふモノとしてはあまりにももったいない。

ドイツなどではトイレレットペーパーは黒くてゴワゴワ。日本でも昔は新聞紙を手でクシャクシャにして、やわらかくしたモノをトイレレットペーパーとして代用していました。そこまでは昔スタイルに戻れとはいませんが、「再生紙」のトイレレットペーパーで十分だと思いませんか？

地球にやさしいトイレの使い方

最後にトイレによく置いてあるペーパータオル。たとえ置いてあっても手を拭くのは自分のハンカチで。1回手を拭くだけで捨ててしまうし、リサイクルもできないなんて、もったいない。

悪いことばかりではなく、日本のトイレにも誇れるすてきな



ところがあります。それは、水タンクの上に手を洗う水が出るしくみ。これは世界に自慢できる日本の大発明！手を洗った水をタンクにためて今度は流すために使う。

「棚田のように同じ水を何度も使う」カスケード利用(※)がそれぞれトイレにできるなんて「すごい！」

と、海外からのお客さまから感動の声をよく聞きます。

トイレは1日何度もお世話になる場所。一人ひとりはどう使うか、そこで何をどのくらい使うか。それが地球への影響を大きくも、小さくもできるのです。



えだひろ じゅんこ
環境ジャーナリスト、翻訳家。
東京大学大学院教育心理学専攻修士課程修了。(有) イーズ代表、幸せ経済社会研究所所長、(有) チェンジ・エージェンツ会長、NGO ジャパン・フォー・サステナビリティ代表。講演、執筆、翻訳等の活動を通じて、「伝えること、つなげること」のうねりを広げつつ、変化を創り出す仕組みを研究。主な著書に『地球のなのおし方』『エコを超えて-幸せな未来のつくり方』『不都合な真実』『私たちの選択』などがある。
(<http://www.es-inc.jp/>)

*カスケード利用……資源を1回だけの使いきりにするのではなく、多段階(カスケード)に活用すること。